



ワカサギにワムシを食べさせるには

「ワムシ」という生物をご存知でしょうか。どんな虫だ??と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、虫ではなく動物プランクトンの仲間です。このワムシは2000を超える種類が世の中には知られているようですが、水産分野ではワムシと言うと、シオミズツボワムシのことを指します。シオミズツボワムシは、魚の初期試料として重要なプランクトンであり、種苗生産の現場で広く用いられています。今回は、生まれたてのワカサギに、シオミズツボワムシをより効果的に食べさせる研究についてご紹介します。

シオミズツボワムシは、タイプによって培養に適した水温が異なり、中でもS型ワムシは適水温が30°C付近と高いことが特徴です(図1)。



図1 S型ワムシ

培養したワムシはネットで取り上げ、魚に与えますが、培養時と給餌時の

水温に 5°C以上差があるとワムシの活性が落ち、給餌効果が低下すると言われていています。ワカサギの飼育水温は 15°C前後であることから、ワムシが水温ショックを受けてしまう問題が発生します。

そこで、S型ワムシを用いて低温培養を行い、ふ化直後のワカサギ仔魚により多く摂餌させられないかと考えました（図2）。S型ワムシは他のタイプと比べて培養水温が高いことから、低温条件で増やせるのかが課題となります。

現在、18°C代で培養密度は維持できており、増殖させるために、水換えの頻度や給餌の量、培養密度を変えて試行錯誤しています。今後は、ワカサギ仔魚を用いてワムシの給餌試験を行い、実際にワカサギが食べたワムシの数や、給餌した後のワカサギの生残日数を把握し、より良い給餌方法の開発に努めて参ります。

内水面試験場 技師 本多 聡

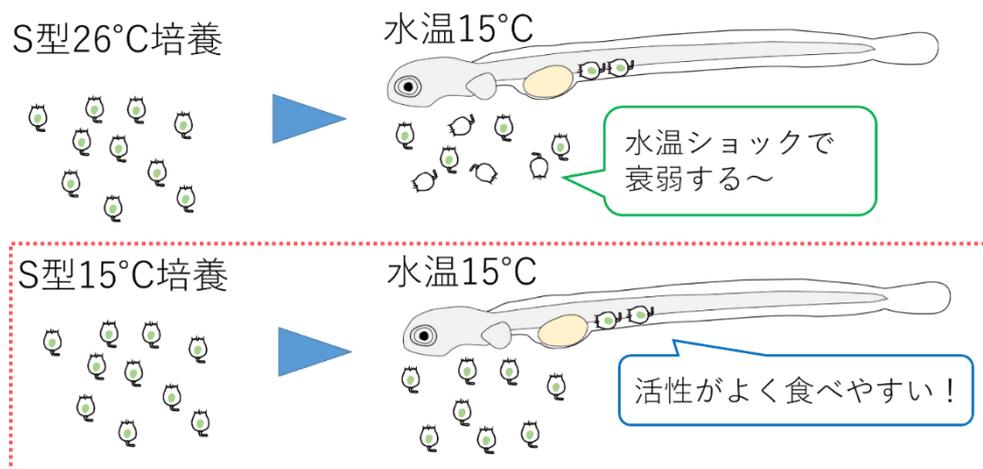


図2 培養水温が異なるワムシの給餌イメージ